

## 第2回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会会議録【要点筆記】

1. 日 時 平成29年3月15日（水） 午後7時から午後8時30分
2. 場 所 南砺市役所 利賀行政センター 2階中会議室
3. 出席者 委員10名
4. 協議事項 (1) 利賀地域山村留学事業本調査の報告について  
(2) 平成29年度利賀地域短期山村留学事業について  
(3) 平成29年度利賀地域山村留学定住事業について

教育総務課長：

ただいまより第2回南砺市利賀地域山村留学定住促進協議会を開催いたします。

本日はレジメの協議事項の1～3につきまして、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは開会にあたりまして、会長よりあいさつをいただきます。

会長：

この利賀の自然や文化を、都会の子どもたちに享受してもらい、この利賀のブランドのなかで精神を耕してもらい、そういう場づくりをこの留学定住推進事業の中でやっていきたいと考えております。そういう中で、教育的な活動とともに、交流も深まって、移住定住に向けて新しい波がきてくれると嬉しいと思っています。

教育総務課長：

ありがとうございました。早速協議事項にはいらさせていただきます。

ここからの進行は城岸委員長からお願いします。

城岸会長：

協議事項に入りたいと思います。

はじめに、利賀地域山村留学事業本調査の報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局アドバイザー：

1つは、山村留学、短期、長期ふくめてですが、やはり教育理念をしっかりともっていただければいけないということです。

この理念というものは価値に、都会の保護者の皆様の価値に訴えるということです。私どもの50年の実績の中で一番大事にしているものは、5つのFということをお達さうのですが、何かといいますと、不満、不足、不便、不快、それから多少の不潔という5つを、子どもたちに環境設定したいのです。

これは何につながるかとというと、我慢する力です。我慢してその先に力を蓄えていくに

はこの5つの不というものを強弱、相まみえながらこのプログラムの中に入れて、子どもたちの環境設定、活動に展開していくという。

このことを皆さんの中で共通理念としてもっていただくことが大事です。この利賀には5つの不がいっぱいあります。それをご理解していただいた上で私どものプログラム、提供をいろいろさせていただきますけど、ご理解いただきたい。

それから2つ目は、アークスを拠点にするという。学校に住もうという山村留学は今までどこにもないです。アークスという施設は素晴らしいですよ。それを居住施設に変えていく、あるいは、家という雰囲気のあるものに変えていくというのはそれなりの智慧が必要でしょうけれども、まず学校に住もうというタイトルは子どもたちに訴えるものがものすごくあると思います。実際に短期の活動の中であの学校に行けば、すごいということは間違いないですから。そのあたりの美点を活かす。それから、今の都会の保護者に訴えるには、学習、ここの部分の成果をしっかり確立するということ。

最後に、3点目ですが、やはりこの山村留学、短期、長期ふくめて、定住化促進事業をふくめて、ハード、ソフトをきちんと整えていくということです。ハードはお金をかければどんな箱物系のものできるわけです。そこにもきちんと、将来展望を描いた、家なら家、活動しやすい拠点、付帯設備、そういうものをきちんと整備した上で事業展開していくということが必要だと思いますし、それから、ソフトの部分、これは3つあると思います。ひとつはプログラム、もうひとつは指導ですね。これはマンパワーふくめてですが、指導方法。それから理念というものです。最後、欠けてはいけないものはやはり、地域の皆さんのハートです。これがないと前に進みません。行政が旗振っているだけではやはり右肩下がりの、やはり、地域の方が本気にならないと、山村留学をはじめたならそこに積極的に関わっていくという、そういうハートを進めること、それが長期的な山村留学につながっていくのだろうという風に思っております。

私の申し上げた3点はこの報告書の中にも網羅されていますが、ぜひ皆さんに改めてご理解いただきたいということで申し上げます。以上です。

事務局：

報告につきましては以上になります。

城岸会長：

委員の皆様方からご意見、ご質問等これからいただきたいと思います。

教育長：

私も、今城岸会長が言われたように、学校を生活の拠点にするという、これが、学校のどの部分をつかってやるのか、まずどういったところから条件整備をしていくべきなのか、食のこと、それから、これは定住になった場合のことになるのだろうと思いますが、富山

県では教員がローテーションで泊まってやっていたが、そういうことが可能なのかどうか、将来を見据えて考えていかないとなかなか難しい問題なのかなと考えております。

事務局アドバイザー：

全国各地、山村留学が行われていますが、これから児童数が減少するわけです。その中で、利賀地域の特色ある都市農村交流事業、教育を活かした地域づくりをやっていくにはどういう視点が必要なのかということで、提案させていただきました。

教育総務課長：

今ほどありましたように、基本的にはステップを踏んでから徐々に積み上げて行って、最終的には今の、学校に住もうというのが目標かなと思っているのですけれども、少なくとも、学校と、住む居住部分になると思うのですが、そこは分離しなくてはいけない。年がら年中四六時中いったりきたりは不可能なのかなという風に思っているのですが、居住部分、公民館などの共有部分、あとは学校部分という形で大きく分けて3つのエリアで区分けをしていかなければいけないというのが最終的な目標です。

短期の留学からはじまって、積み上げて行って、そういう形になるのかなと思います。

委員：

全寮制がやりやすくなるような、そういう土壌がうまれるのではないかなと思いますが、それは違うのですか。新しい学習指導要領の改正では、そういうことをやれば地方自治体の財政的な補てんもされるというふうな一面もきいていますが、違いますか。

教育総務課長：

学習指導要領のことはまだ聞いていませんが、山村留学ですから、全て全寮制ということではなくて、やはり地域の人たちとなんらかの形で関わっていかないと、全寮制で入って子どもたちが全く何をしているかわからないというような、そういうのはまた別の世界かなというように思っています。

委員：

子どもたちにはもっと良い教育効果を得られるのではないかという風に、セカンドスクールとか7月の終わりに児童交流を4、5日やっているのをみながらそう思います。

だから、学校に住もうという提案は、すごく大胆だけれども、そのこと自体は素敵な提案です。地域住民として住んでいるものとして、それをどれだけバックアップできるのかってということだと思います。

やれること、お手伝いできることはいっぱいあると思います。それが潜在的な、地域のハート。それを掘り起こして、バックアップ体制も実っていくのではないかな。

たとえば子どもたちに接する研修とか、自然に対する野外活動インストラクター養成とか、いろんなこともふくめて学習の場にたてば、住んでいる人もこんなことが知らなかったのかといこと教えてもらえるとと思います。

総合的にそういうものをいくつかまとめて住民にも提案して、教育現場の先生たちも、相乗効果があるのだということ提案できるようなものになるといいですね。

利賀村は他の地域以上に経験があるから、自信もって提案できるのではないかと。

委員：

山村留学の拠点としてアーパスが理想的だと思います。私どもとしても、どんどん子どもたちが少なくなって、将来どうなるのかという不安だけが先行していくようなことではせっかくの施設が活かされないし、そのことが活かされれば、将来的にもプラス思考でいけるし、いい目標となります。ただひとつ、学校という教育環境であるだけに、制度的にそういうことが可能であるのかどうか。制度的にそれが可能なのであれば、そういう風利用されれば、この山村留学が生きてくるのではないかと思います。

事務局アドバイザー：

制度的にはかなりのハードルがあると思います。家庭教育と社会教育と学校教育、これが三位一体となってひとつのところにあるというのは日本に無い。これをぜひこの利賀で、というのが私達のひとつの提言です。

委員：

小学校と中学校と社会教育と一緒にした学校というのはそうないわけで、それがさらにそういうことで活かされるということになればいいのですが。

事務局アドバイザー：

そこになお一層、家庭教育も入れるわけです。寮というのは家庭ですから。そこにさらに家庭教育もいれて、三位一体の教育を作る。

委員：

それこそやっぱり魅力あるものになる。

事務局アドバイザー：

提言ですので、具体的にハードルを越えてくるのは市の方々が懸命にやらなければいけないことと思いますけど。

会長：

色々、ご意見もございましょうが、前向きに、やるようにして、これから協議を重ねていくと。難しいハードルもあれば、制度がクリアできないだろうかやってみる、という方向で努力いただくということによろしいでしょうか。

次に、利賀地域短期山村留学実施要項について、事務局の説明お願いいたします。

事務局：

企画指導ということですが、これは教育ということでありましたが、企画指導に変更になっております。3番目の活動名ですが、夏休み利賀森と水のキャンプ（仮定）というようなかき方をしておりましたが、正式に、利賀森と水の自然体験キャンプという形にしております。それから4番目に実施期間がありますけど、これは夏休み期間中の4泊5日ということで、8月10日までに実施を検討するというものでありましたが、正式に、7月26～30日までということで協議させていただいております。それから6番目の集合解散ですが、東京駅、名古屋駅にしておりましたが、名古屋駅を一宮駅に変更させていただいております。参加費につきましては、4万円とさせていただきます。

それから11番事前研修のところですが、ホームステイ家庭の事前研修プラス、当然指導ボランティアの事前研修も必要であるということですので、この部分についても新たに加えさせていただいております。

委員：

児童交流の期間と重なっていますよね。

委員：

7月25日～28日で重なっていますが、スターフォレストで3泊して、民泊の予定は28日ということで、いろんな日程調整した中でこの日なら大丈夫ではないかということで決定しました。

委員：

募集期間を検討されるわけですが、締め切りはいつまで？

事務局アドバイザー：

チラシ上で締め切り期間というよりも、ひとつの考え方としては、締め切りはあくまで5月31日ですが、定員に空きがあればそのまま継続して募集しますとか、表記を考えたと思います。

会長：

4月2日は武蔵野さくら祭りがありますので、そこに利賀の人たちもいわなを焼きにい

きますので、そこにできたらこのチラシをおいておけば宣伝になるのではないかと。

事務局アドバイザー：

間に合います。

城岸会長：

よろしいでしょうか。続きまして資料3をご説明ください。

事務局：

続きまして、3番目の方の、29年度利賀地域山村留学定住事業についてということで、12月に協議会がやっと立ち上がったばかりだということで、一体協議会として今後どういったことを検討していくべきだとかいうことを少し、6月下旬頃までに先進地でいろいろと研修させていただきたいと考えております。

会長：

そうするとこの視察の日程調整は

事務局：

H29年度の第1回目の協議会に提示します。

会長：

そういうことでいきたいと思います。皆さんご意見はございますか。

それでは、今まで全体の中でのご意見、ご質問等ございませんか。

それでは、その他ということではよろしいですか。

教育総務課長：

今後のスケジュールに関しましては今このチラシもございましたが、募集期間が4月25日からはじまるということですので、できれば(GW)連休明けくらいに、こちらの応募状況も踏まえて第1回を開催させていただきたいと考えております

以上で、本日の協議内容等終わりましたので、閉会にあたりまして、副会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

北田副会長：

それでは第2回の協議会、ご苦労さまでございました。今日は利賀中学校の卒業式がありました。7名が卒業し、ますます少子化していくような状況にある中で、我々で少子化をなんとかしたいというような気持ちがあるのか、利賀地域の活性化につながる

ような山村留学を目指していかなければいけないのかなということをいっているわけです。

とりあえず今短期からはじまって、今後の経緯をみながら、やっていながら、進めていきたいと思っておりますので、また今後ともよろしく願いいたします。

教育総務課長：

どうもありがとうございました。今年度最後の会議ということですので、高田教育長よりご挨拶を申し上げます。

高田教育長：

協議会の皆様方には大変お忙しい中、お足元の悪い中お集まりいただき誠にありがとうございます。育てる会の皆さんにも、お忙しい中この会議に出席いただきまして、アドバイスをいただけたと思っております。私なりに今日の話をもとめると、この短期留学で十分醸成させて、その中で利賀独自の、あるいは日本全国どこにもない山村留学、そういったものの方向性を探っていく、そういう風にこの短期留学を考えていくべきであろうと思っております。

この推進協議会も、次年度から第1歩を踏み出すわけですがけれども、行政、学校、そして利賀地域の皆様方三位一体となって進んではじめてその実をあげていくのではないかと思っておりますので、また、協議会の皆様方に中心になっていただき、地域住民の皆様方の心を耕していただければありがたいと。

我々行政の方でもすべきことは何かということをしつかりと考えていきたい。学校ですべきことはどんなことがあるのか、そういったことをふくめて考えていきたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。一年間どうもありがとうございました。

教育総務課長：

ご出席ありがとうございました。これもちまして、会議を閉じさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。